

経営比較分析表（令和3年度決算）

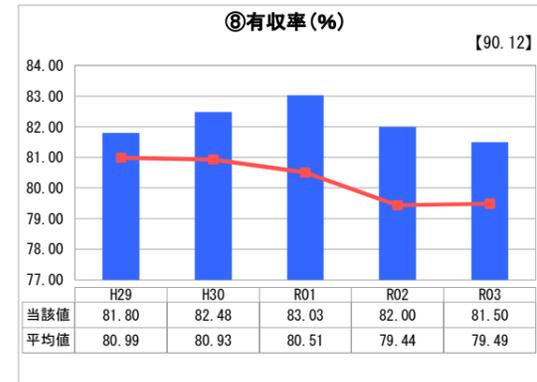
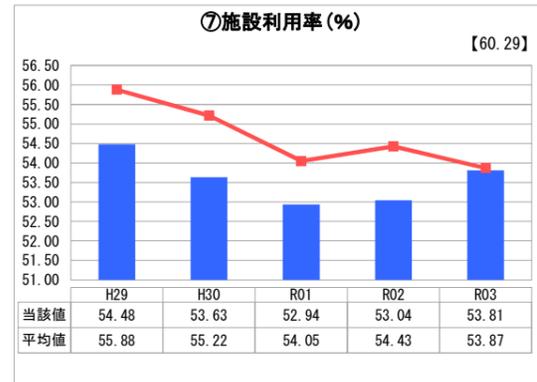
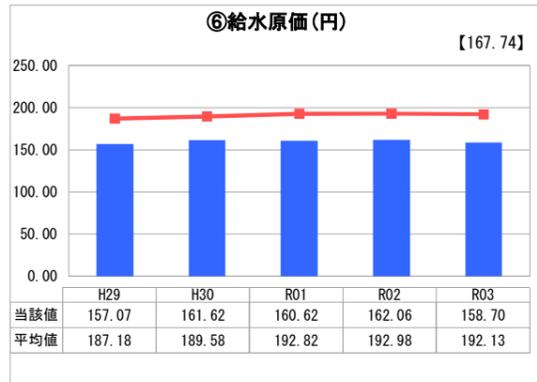
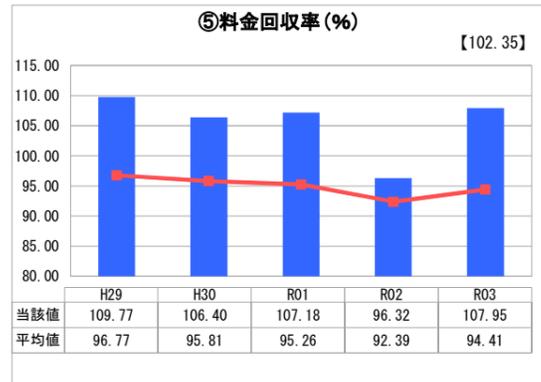
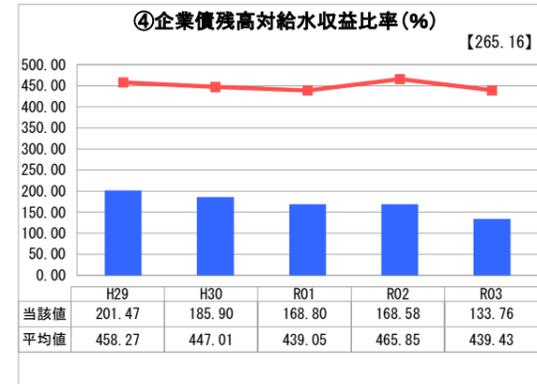
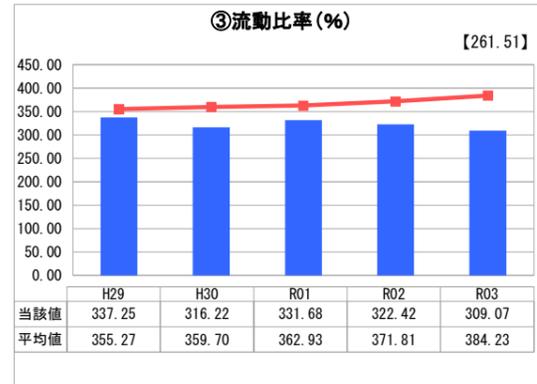
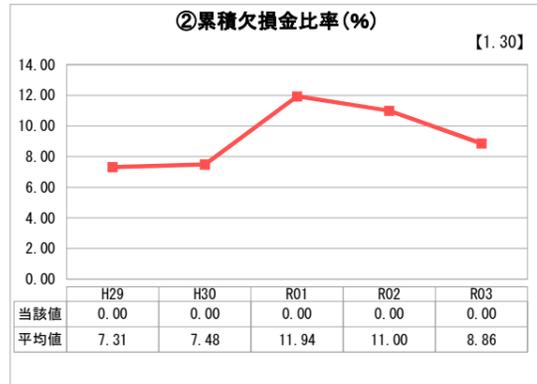
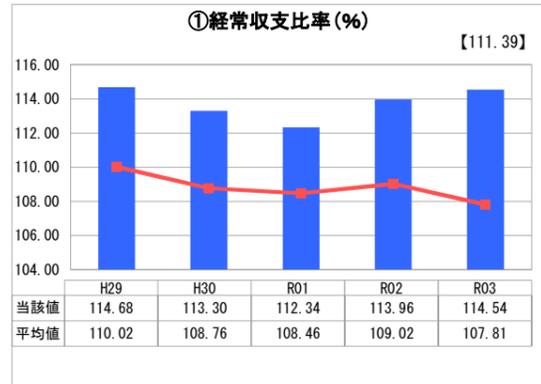
埼玉県 神川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	83.34	98.99	3,190	

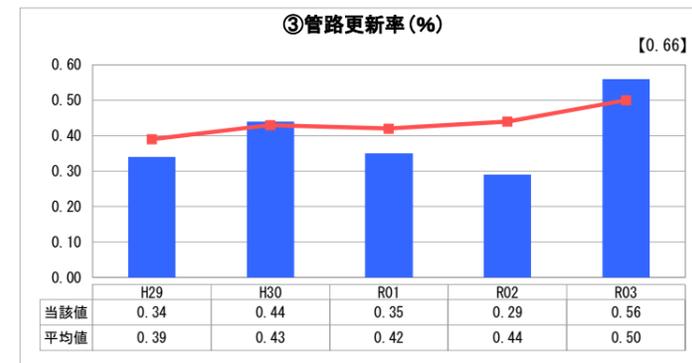
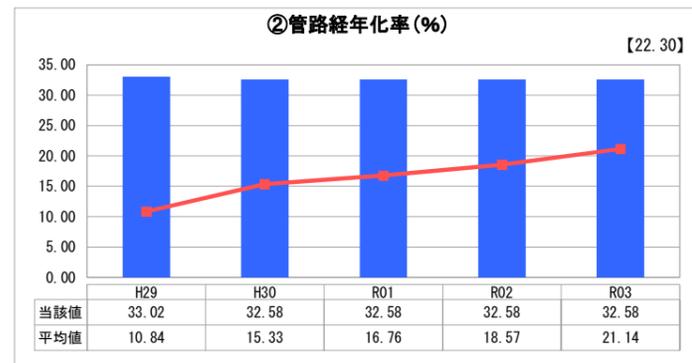
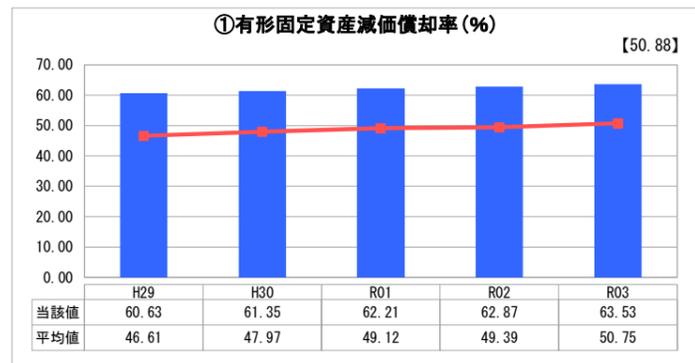
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,173	47.40	277.91
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
12,995	46.58	278.98

グラフ凡例		
■	当該団体値(当該値)	
—	類似団体平均値(平均値)	
【	令和3年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、新型コロナの影響で実施していなかった集金業務が再開したことにより、昨年度よりも微量ながら上昇した。今後も健全経営を継続していく。
 ② 累積欠損金は生じていない。今後も欠損金が生じないように継続していく。
 ③ 流動比率は企業債元金の償還額が減少しているため、100%を超えており、短期的な債務に対する支払能力を有しており、今後も健全経営を継続していく。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を大きく下回っており、企業債元金の償還額が減少しているため、比率も年々下降しており、今後も健全経営を継続していく。
 ⑤ 料金回収率は、コロナ対策減免を実施しなかったため、回収率は上昇した。今後も回収率上昇を検討していく。
 ⑥ 給水原価は、効率的な事業運営に努めてきたことなどから類似団体平均値を下回っているが、施設の老朽化などによる修繕費や減価償却費の増加に伴い、今後は給水原価が増加していくことが見込まれるため支出について更なる精査を行う必要がある。
 ⑦ 施設利用率は、新規大口契約者の増加に伴い使用数量が増加したため、昨年度数値より増加した。今後も適切な規模確保を検討していく必要がある。
 ⑧ 有収率は類似団体平均値を上回っているが、地表に出てこない漏水の増加や、火災の影響で消火栓を使用するなど不明数量が増加し、有収率は低下した。今後も引き続き老朽管の布設替えの推進や漏水調査を実施すること等により、有収率の更なる向上に努めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率については、過去20年ほど大規模工事を行っていないため横ばいとなっている。今後の計画で来年度より予算を調整しながら計画的に更新工事を行っていく。
 ② 管路経年化率は、法定耐用年数が経過した老朽管を毎年度同数量にて順次、布設替工事を実施しているため、工事延長がほぼ一定となっている。類似団体平均値を大幅に上回っているため、計画的で積極的な施設管路の更新が必要である。
 ③ 管路更新率は石綿セメント管や老朽管の更新を進めた結果、過去5年間で最も更新率が高くなった。今後も計画的に更新を進めていく必要がある。

全体総括

現状、負債についての懸念は無く、料金設定も適切だが、給水人口の減少に伴い、給水収益の減少が見込まれる中で、効率的に財源を確保し、施設規模の見直しや老朽化した施設や管路の更新を実施していく必要がある。

経営比較分析表（令和3年度決算）

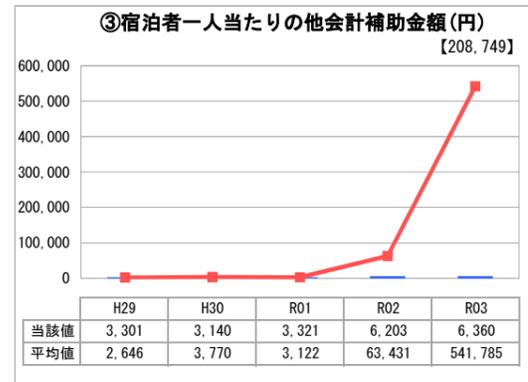
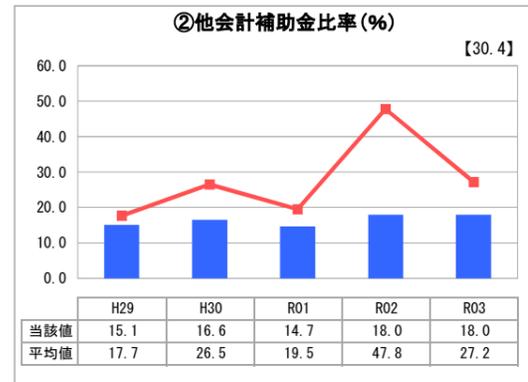
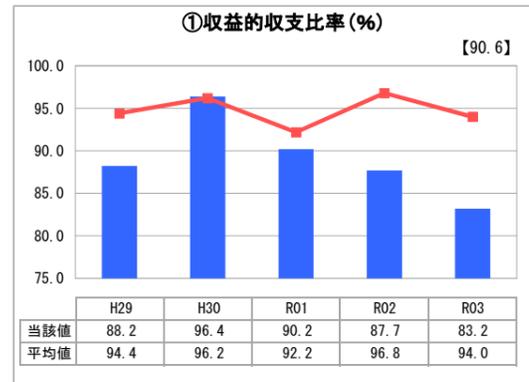
埼玉県神川町 冬桜の宿 神泉

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	観光施設事業	休養宿泊施設	A 1 B 2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	建物延面積 (㎡)	宿泊定員数 (人)	
該当数値なし	該当数値なし	1,022	60	

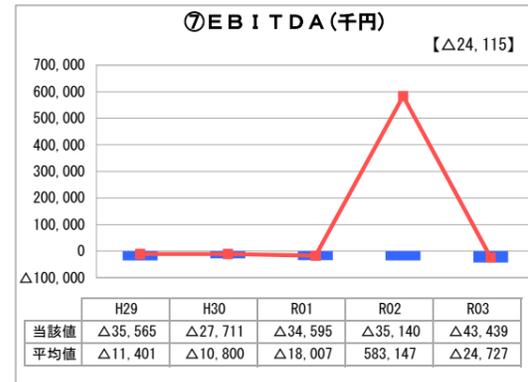
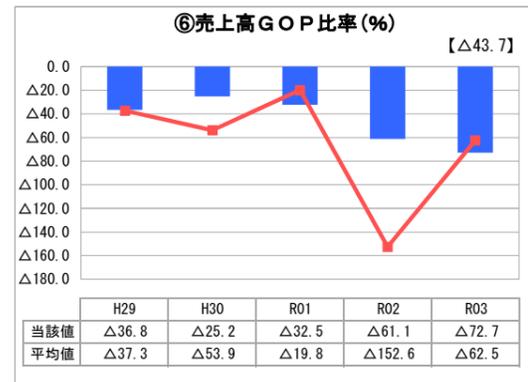
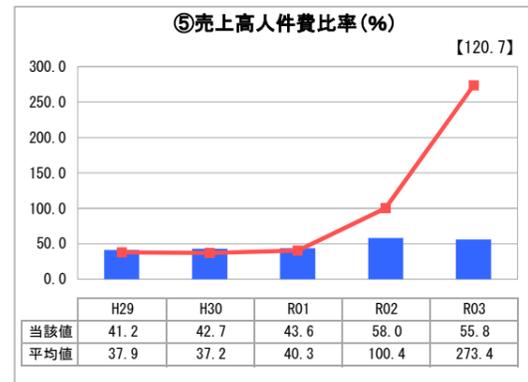
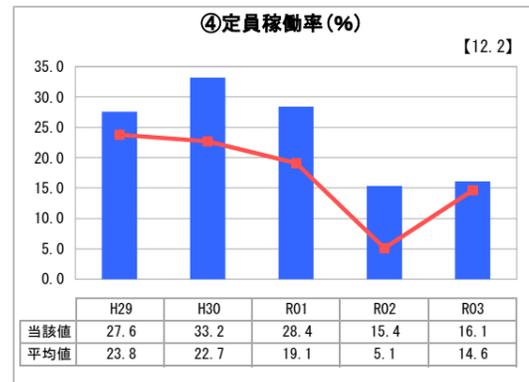
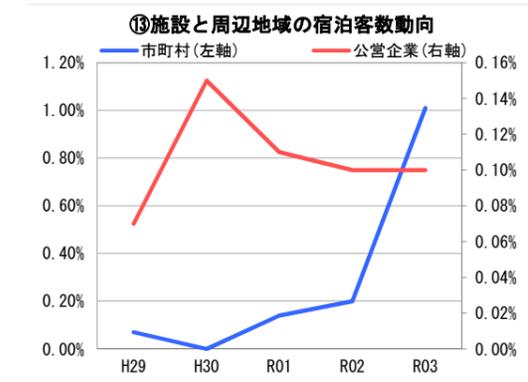
客単価 (円)	指定管理者制度の導入	インターネットによる予約割合 (%)
12,010	利用料金制	90.0
バリアフリー法の基準適合性	トイレ洋式化率 (%)	Wi-Fi 設置
有	100.0	有

グラフ凡例	
■	当該施設値 (当該値)
—	類似施設平均値 (平均値)
【】	令和3年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

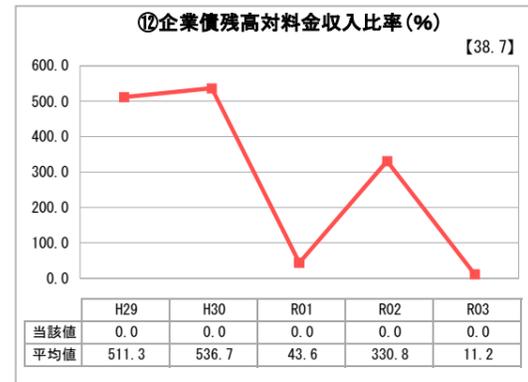


⑨施設の資産価値 (千円)

154,893

⑩設備投資見込額 (千円)

47,417



分析欄

1. 収益等の状況について

①収益的収支比率は老朽化による施設修繕が増えたことにより総費用が増加し、落ち込みました。
 ②他会計補助金比率は、類似施設平均よりは低い値ですが、前年比横ばいとなりました。
 コロナ禍の中でも工夫をし、前年程度の集客を得ましたが、③宿泊者一人当たりの他会計補助金額は、類似施設平均よりは低い値ですが、老朽化による施設修繕費の増があり上昇したものです。④同じ理由で、定員稼働率は、横ばいとなりました。
 ⑤売上高人件費比率は類似施設平均よりは低い値ですが、コロナ禍の中でも工夫をして売上高の微増と、それに伴う人件費の微増により横ばいとなりました。
 ⑥売上高GOP比率は売上高は微増でしたが、施設老朽化による修繕費用の増の影響で落ち込んでいます。
 ⑦EBITDAは施設老朽化による修繕費用の増の影響で、値が下振れています。

2. 資産等の状況について

⑩設備投資見込み額は、風呂のボイラーや空調設備などの経年劣化による修繕を行いました。今後は、築後18年を迎え、更に老朽化による設備投資が増えることが予想されます。
 ⑫企業債残高対料金収入比率については、観光施設事業に関わる企業債は平成27年度に完済、平成24年度から指定管理者制度を導入し、現在は料金収入もないため0%となっています。

3. 利用の状況について

⑬施設と周辺地域の宿泊客動向については、当該施設及び周辺地域それぞれの延宿泊者数が、所在都道府県の延宿泊者数に占める割合の推移を表す指標です。
 公営企業（当該施設）の宿泊者数は、令和2年度と比較しわずかながらコロナの影響が少くなり微増となる一方、周辺地域（所在市町村）の宿泊需要は上昇傾向にあります。
 公営企業（当該施設）の需要が低下していると考えられるため施設のあり方について再検討します。

全体総括

当該施設については平成16年度から事業を開始し、平成24年度からは指定管理制度を導入して運営しています。一般会計からの繰入金に依存しているため、より一層の経営改善により宿泊者数を増加させ、独立採算の運営が求められています。当該施設は下久保ダムや城峯公園といった施設が近くにある立地で、観光客が多く訪れる場所ではありますが、山中にあり、冬季には路面の凍結が発生するなど、閑散期における宿泊客獲得に向けた対応が必要です。
 コロナ禍による観光不況の中、利用客数を横ばいに食い止めています。感染防止と経営努力を両立させる難しい状況があります。

経営比較分析表（令和3年度決算）

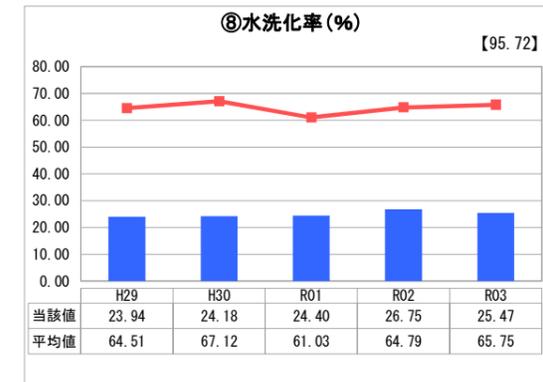
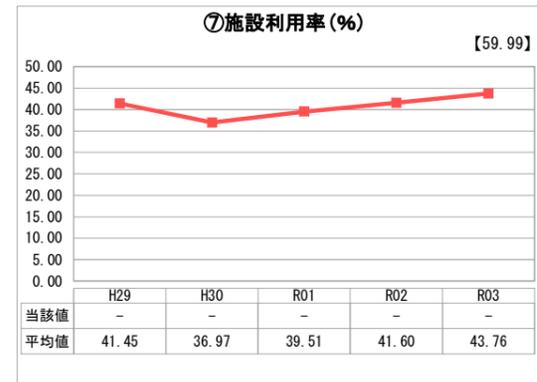
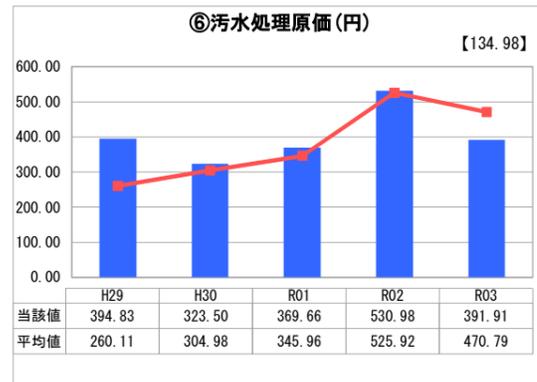
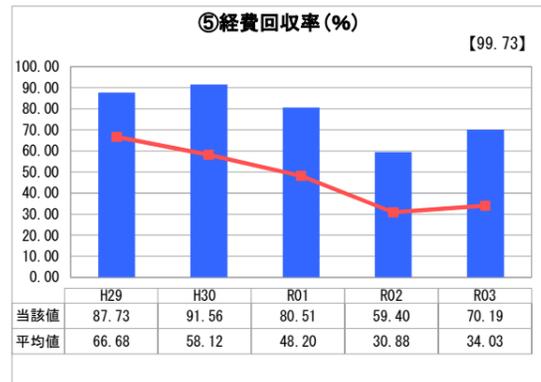
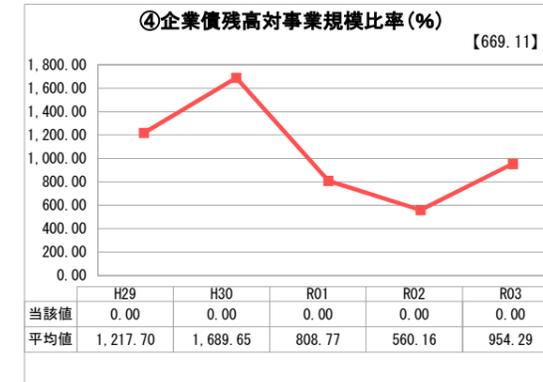
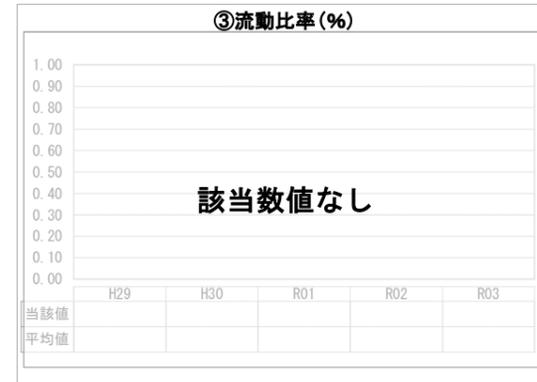
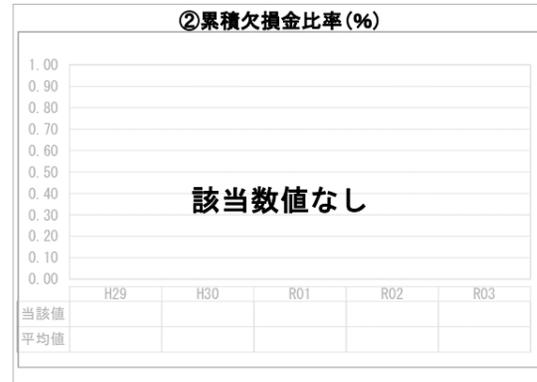
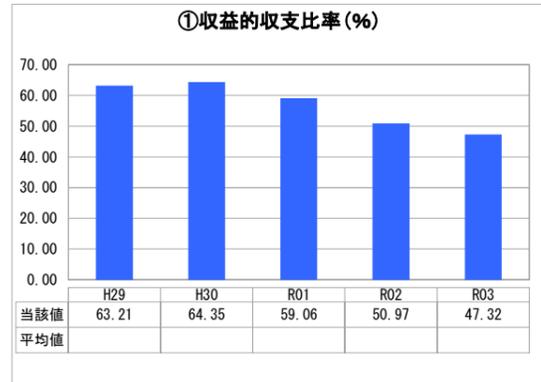
埼玉県 神川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	3.26	95.00	2,420

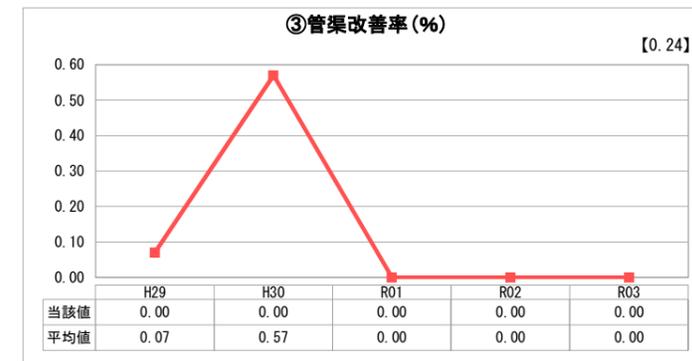
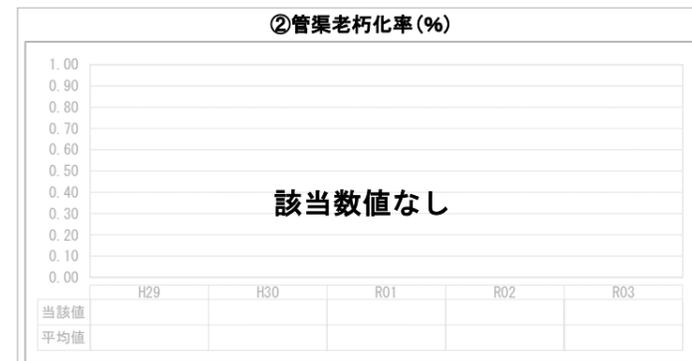
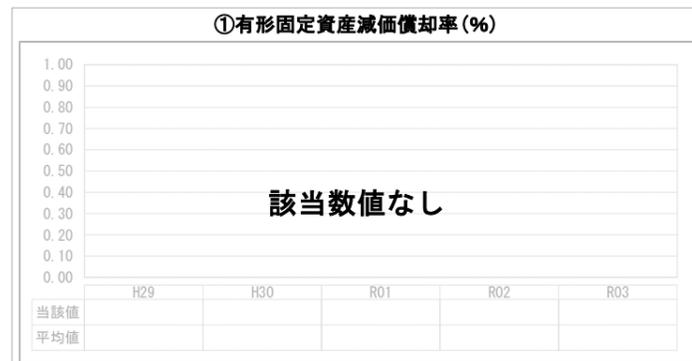
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,173	47.40	277.91
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
428	0.54	792.59

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」令和2年度より約3.7%減少している。主な要因は、令和4年度公営企業会計の移行前の、打切り決算の処理を実施したことによるものである。今後は、公営企業者として経費節減だけでなく、経営基盤でもある下水道使用料の改定を検討することで、健全性・効率性を実現する。

「⑤経費回収率」令和2年度より工場の稼働率が若干増え汚水量の増加に繋がった。これからも回収率向上に向けて接続件数の増加と経費節減を心がける。

「⑥汚水処理原価」改善が見られた主な要因は、工場の稼働率の増加と経費（工事設計費、修繕費）節減によるものである。

「⑧水洗化率」令和2年度より若干ではあるが、人口が減少傾向にあり、健全な運営を継続していくために、啓発活動を推進していく。

2. 老朽化の状況について

神川町ストックマネジメントに基づき、適切に維持管理を行っていく。なお、今後は事業区域を99haから61.6haへの縮小に伴い、維持管理部門に重点を置いた予算編成が可能となり、事業の効率化・適正化・迅速化が図れる。

全体総括

神川町公共下水道事業は、供用開始より13年経過したが、令和4年度より公営企業会計に移行し、安定した事業を実現するため、使用料の改定が喫緊の課題である。なお、神川町下水道事業経営戦略は、平成28年度から10年間を対象として策定している。経営比較分析表等に効果进行评估し、適宜、見直しを図りながら計画を着実に遂行していく。令和7年度に見直しを予定。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

経営比較分析表（令和3年度決算）

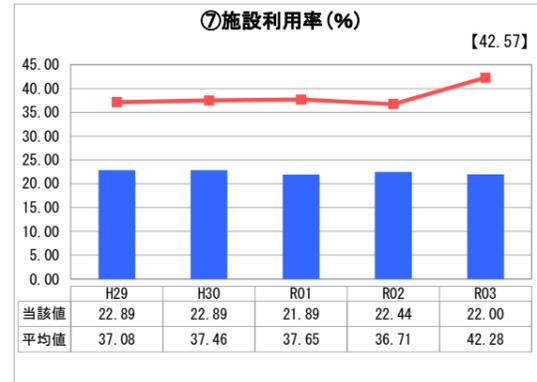
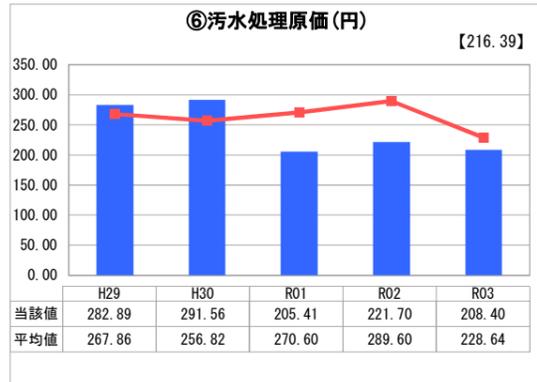
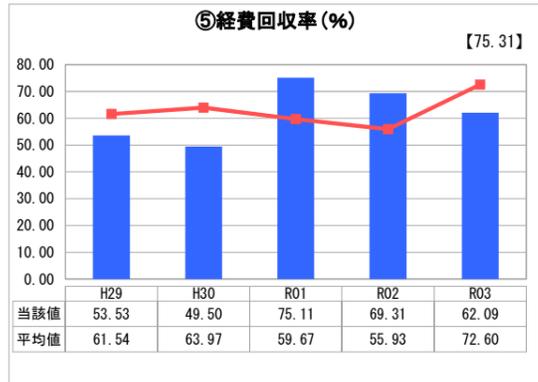
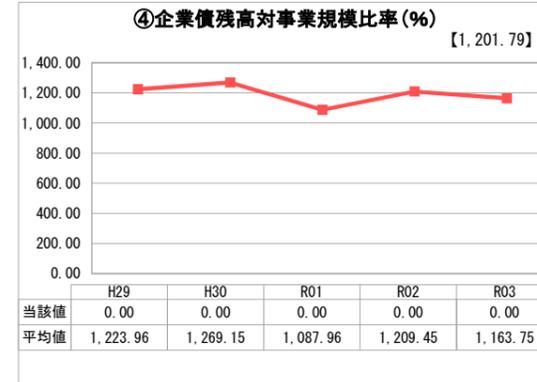
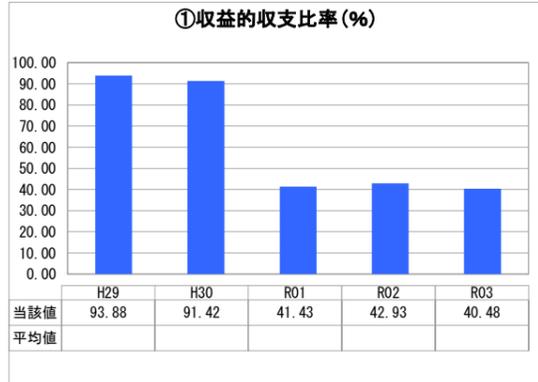
埼玉県 神川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	9.23	96.25	2,420

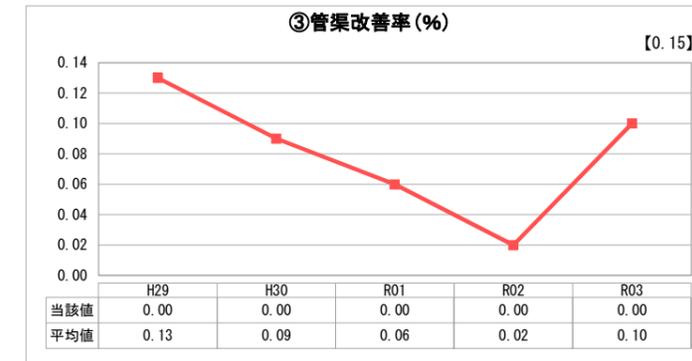
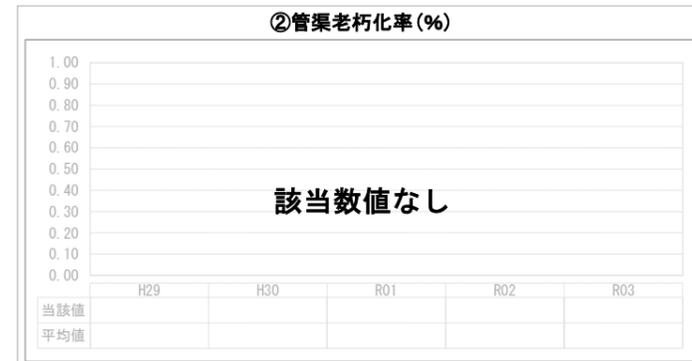
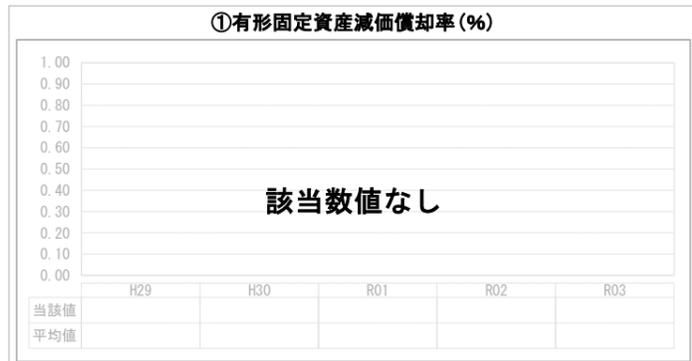
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,173	47.40	277.91
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,211	0.76	1,593.42

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①収益的収支比率」令和2年度より、約2.5%減少している。主な原因は、令和4年度公営企業会計の移行前の、打ち切り決算の処理を実施したことによるものである。今後は、公営企業者として経費節減だけでなく、経営基盤でもある下水道使用料の改定を検討することで、健全性・効率性を実現する。

「⑤経費回収率」人口の減により使用料収入が減少傾向にある。安定した事業運営を実現するため、経費節減・使用料の改定を検討する。

「⑥汚水処理原価」年間の有収水量が昨年度よりも2,000m³増加と維持管理費の微減が主な要因である。

「⑦施設利用率」宅地造成等により僅かであるが増えているが、未だ施設利用率が昨年度同様20%台である。その要因は、施設の処理能力に対して汚水流入量が少ないからであり、当初計画処理能力は、900m³/日で実際の汚水量は198m³/日である。解消に向けて、接続件数を増やすための広報や該地区住民を対象とした施設見学会等の実施に努める。

「⑧水洗化率」昨年度より若干であるが、改善している。要因は、4件の宅地開発により下水道の接続が増えた事によるものである。これからも啓発活動を営利推進していく。

2. 老朽化の状況について

神川町ストックマネジメントに基づき、適切に維持管理を行っていく。なお、今年度は汚水ポンプ1基更新工事を実施。

全体総括

神川町（特環）公共下水道事業は、供用開始から16年。令和4年度公営企業会計に移行を予定しており、安定した事業運営を実現するため、経費節減と効率化を目指す。また、運営基盤でもある使用料の改定を検討する時期でもある。なお、神川町下水道事業経営戦略は、平成28年度から10年間を対象として策定している。経営比較分析表等により効果を評価し、適宜、見直しを図りながら計画を着実に遂行していく。令和7年度に見直しを予定。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。